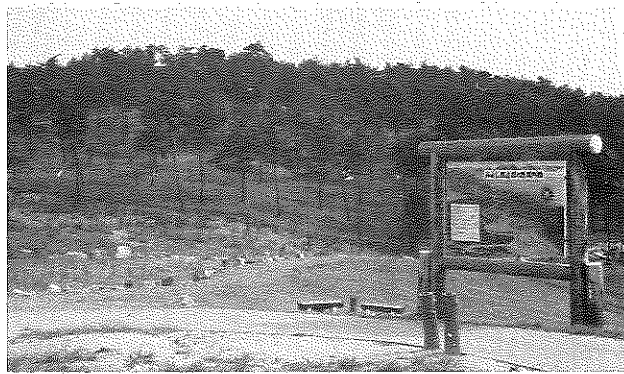




風土記の丘 ▲

富士三次カントリー ▶



第13・14・15・16号

昭和52年9月30日

発行人

野村節也

編集人

田中恭生

印刷所

広島県双三郡吉舎町

佐々木印刷株式会社

参議院選を省みて

双三地区医師会会長

野村節也

第十一
回参議院
選挙は、
去る七月
十日に行
われまし
た。我々
の代表福
島茂夫先
生は、全
国区第三
位の高位
当選をな
し遂げら
れ誠に喜
びに堪え
ません。
保革逆
転、医療
の危機を
深く憂う
るさ中で
の選挙で
はありま
したが、
福島茂夫
先生の高
位当選は
先生が学

問的・政治的或は人格的に最適任者であったことは勿論のこと、近來まれにみる全国医師会員一丸となつて立ち上がった絶大なる支援の賜と思ひます。

我が双三地区医師会員各位は、今日の医療問題の危機を深く認識され、自主的・積極的に活動を展開され協力されたことに深く感謝の意を表します。

今回の参議院選挙を省みるにあたり、その経過をたどつてみたいと思ひます。

まず三月十三日、代議員会終了後福島候補を励ます会が開催され丸茂先生の中央情勢並びに医療の将来についての国会報告を聞きました。この話を是非全会員に伝えたいと思ひ、松原眞理事に依頼してテープを送つてもらいました。

今回の参議院が医師としての将来の岐路を定める選挙であり、もしも保革逆転となれば我々に関連した諸々の事柄が如何になるかを理解して頂くために、このテープを十二分に利用し効果があつたように思ひます。

それから後援会対策委員を十九名依頼し、三月二十九日委員会を開催して後援会活動の具体的方針方法について夜遅くまで熱心に議論し、関心の深さに意を強くしました。

五月二十二日には、県医師会講堂における福島茂夫先生激励会に当地区医師会より二十五名が参加しました。

また、六月二十一日には、福島茂夫先生夫人を迎え、広島県医師連盟北部支部総決起大会を開催しましたところ二五〇名の参加者を得、大盛況を呈しました。特に地元双三歯科医師会向井会長の全面的に支援すると言ふ激励の言葉に我々は勿論、福島夫人も大いに意を強くされました。

また、当医師会地域別ブロック会を設け、鳴戸副会長と各地域ブロックを回り、各ブロックの状況に即応した活動計画を話し合つたことは何よりもまして有益であつたと思ひます。

投票結果は、前回の丸茂選挙八〇三票に対して今回の福島票は、二五〇票増加の一、〇五三票という好成绩でありました。しかし、我々が予想していた票数よりやや伸びなやみの感があり、これも早くより一〇〇万票台、最高位当選確実が新聞等で報道され、又、終盤に於ける具出身の有力候補の追い込みが激しかった為と考えられます。

やがて三年後には丸茂選挙を迎えるわけですが、今後の選挙対策を考えると、最近マスコミによって誤つて報道されがちな医療問題及び医政問題を、あらゆる機会を利用して、平素より地域住民を啓蒙するよう努力することが最も大切で、やがて選挙にも自ら好結果をもたらすものと思ひます。

双三地区循環器補習講座より

演題 脳卒中の外科的療法

県立広島病院脳外科部長 北岡 保

脳神経外科の最近の進歩は、手術顕微鏡の使用と、CT Scan (computer tomography)である。いずれも、脳卒中の外科に関係があり、前者は細血管を保存し小開頭で手術が可能となり、直径一mm以上の血管吻合が可能となった。後者は患者に危険・苦痛を与えないことなく、出血量・腫瘍・軟化巣を描写することができ、高価な機械であることが唯一の欠点である。

脳卒中の外科的治療の対称となる疾患は、以前は、くも膜下出血で発症する脳動脈瘤、動脈奇形と高血圧性脳出血の出血性疾患のみであったが、最近閉塞性疾患にも外科的治療がなされるようになり、その一部に良好な成績を得ている。

1. 脳動脈瘤は脳神経外科がもっとも活躍する所である。くも膜下出血は四十歳台にピークがあり、出血後早期に血管写をおこない、診断確定と共に治療方針を立てる必要がある。手術成績は術前の状態に左右されるが、発症後十日〜十四日の手術例では、死亡率は二〜四多である。手術時期から早期(四十八時間以内)と待期手術(十日〜十四日)があり、前者の場合には動脈

瘤の処置と血管収縮の原因となる凝血の除去という利点があるが、これには病院での救急手術の体制作りが必要であり、医師のみならずパラメディカルの人達の協力なくしては行い得ないものである。待期手術は抗プラスミン剤の大量投与・安静をおこない、血管収縮の危険が過ぎて後に手術をする方法であり、その間には、再破裂と血管収縮による症状の悪化があるが、手術死亡は低い。

血管収縮は三〜五日目にみられることが多く、全身状態及び神経症状が二十四時間のうちに治癒してしまふ。この原因はオキシヘモグロビンが動脈壁に作用するとされ、現在その対策には二、三のものがあるが、血管収縮が一度完成すると、脳の乏血状態をきたすので、場合によっては死に至ることもある。従って、早期又は待期手術が各病院で各種の因子を検討しながら行われている。

2. 脳動脈奇形のくも膜下出血は、二十歳代で発生することが多い。本症の手術は摘出であるが神経欠損症状を新たに作らないことが大切である。従って兩大脳半球に及ぶもの、深部のものは手術が出来ない。

3. 高血圧性脳出血の移送の可否は、血圧・呼吸・脈搏などからショック状態でない人は総べて設備のある病院に移送することが最も望ましいとされている。手術目的は、(1)神経欠損症状の改善、(2)救命の二つである。手術可能な部位は基底核の被殻、視床の一部、皮質下、小脳の場合である。血腫が被殻に局限している場合には、内包の錐体路は圧迫、進展され、ブロックされており、血腫除去により、片麻痺を回復させることができる。このような症例は内科的治療では麻痺を残す場合が多い。一方、救命は内科的治療で一〇〇%であるが、手術では二〜三%の死亡(この多くは術後の合併症)がみられるので、適応を十分に考慮する必要がある。救命の場合には、術前の意識が重要な因子で二〇〇(3〜3.9度方式)までは救命可能で死亡は二〇%である。

内科的治療と外科的治療の比較は困難であり、軽症例と最重症例が内科的治療がなされるからである。

4. 閉塞性疾患は、TIA (transient ischemic attack) RIND (reversible ischemic neurological deficit),

Completed Stroke, Progressive Stroke と分ける

と便利である。(TIAは二十四時間以内、RINDは三週間以内に完全に症状の消失するもの)

閉塞部位では、頸部内頸動脈の狭窄乃至閉塞には、血栓内膜剥離により、良好な結果を得られる。

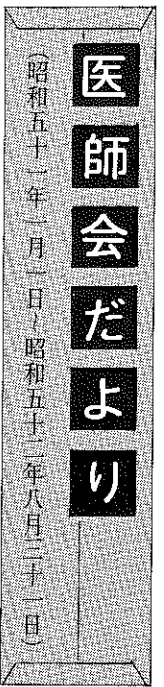
それより末梢部の内頸動脈、中大脳動脈の狭窄又は閉塞には頭蓋外内動脈吻合術がなされる。浅側頭動脈と中大脳動脈皮質核の間に吻合術をおこなうもので、直径一・〇〜一・五mmの端側吻合を手術用顕微鏡下でおこなう。手術成績と術前の病型をみると、TIA, RINDでは発作の消失がある。Completed stroke の軽症(一つの肢の不全麻痺)のものには有効例が五〇%にみられるが、片麻痺のような重症には全例改善が得られない。

この手術は発病後七日以後に行われ、早期に手術をすると、脳出血、脳浮腫などで死に至る事が多い。



鎮痛・解熱・消炎剤
インテバシ SP
《スパンスールカプセル》
製造発売元 住友化学 医薬事業部
販売元 稲畑産業 医薬事業部

鎮痛・抗炎症剤
バンブラミンカプセル
一般名一塩酸チノリジン (単位当り ¥28.00)
製造=吉富製薬株式会社
販売=武田薬品工業株式会社



10月2日

公衆衛生担当理事連絡協議会
予防接種の法改正について

中村理事出席

10月24日

広島医学会北部支部大会
特別講演「感染症と化学療法」
講師 帝京大医学部教授
於吉田病院 藤井良知先生

10月30日

長船病院新築落成式
執行委員会「選挙対策について」
野村会長出席

11月24日

・学術講演会於双三地区医師会館
演題「急性心筋硬塞の治療」
講師 広大第一内科助教
吉田正男先生

・第10回職員との懇談会
「職員の給与について」
出席者 野村会長、鳴戸、高場
両副会長、長船理事

特別委員会出席者
野村会長、鳴戸、高場両副会長

12月2日

松島寿朗先生葬儀、津島理事参列

12月10日

双三地区補習講座
演題「内臓疾患と皮膚病変」
講師 双三中央病院皮膚科
森安昌治郎先生

12月17日

於双三地区医師会館
昭和51年度合同役員会 於松山

52年1月12日

末永双三地区歯科医師会長葬儀
野村会長参列

1月22日

地区対協連絡協議会
野村会長出席

1月25日

双三地区循環器補習講座
演題「うっ血性心不全の治療」
講師 広大第一内科助教
吉田正男先生

1月27日

於双三地区医師会館
地対協救急医療専門委員会
於三次保健所

2月16日

昭和51年度監事会
出席者 吉光、大谷、岸田各
監事、野村会長、鳴戸、高場
両副会長、長船理事

2月18日

理事会 総会日時、昭和51年度
概算決算、昭和52年度予算案審
議、永年開業(30年)会員表彰
会館増設の件外。

2月19日

郡市医師会学校医担当理事連絡
協議会、学校医部会
高場副会長出席

2月24日

双三地区循環器補習講座
演題「先天性心臓病の管理」
講師 広大第一内科助教
吉田正男先生

2月25日

昭和51年度(第30回)総会
昭和51年度概算決算報告の件
昭和52年度予算承認の件
役員改選
昭和52年度役員(内職務分担
会長 野村節也
副会長 鳴戸謙隆
(保険検査センター)
高場賢治(学校医、広
報、公衆衛生)

理事

中村知巳(学校医)
田中恭生(産業医、広報)
長船元昭(経理、学術)
若本敦雄(学術)
板橋守(七月一日辞任)
三浦康弘(公衆衛生)
岡崎邦之(福祉、広報)
箕岡源二(検査センター)
谷岡慶宣(広報、公衆衛生)
湯浅保(学校医)
藤井正二(保険)

議長

荒瀬秀隆
副議長 小川晃二
顧問 得能長絃、長岡 淳
代議員 野村節也、鳴戸謙隆
予備代議員 高場賢治、長船元昭

医師国保組合

高場賢治 高場賢治
市福祉事務所嘱託 荒瀬秀隆
結核審査会委員 野村節也
社保審査会委員 鳴戸謙隆
裁定委員会委員 箕岡源二
委員長 中村伊久
委員 谷岡只雄、山崎曉成

委員

野島博之、高場博之
野島 宏、佐々木喬
委員 田中恭生
委員 岡崎邦之、箕岡源二
藤谷博義、谷岡慶宣
酒井龍之介
産業医部会委員
委員長 鳴戸謙隆
委員 荒瀬秀隆(三次)
佐伯習之(十日市)
横山昌彦(塩町)
津島治雄(三和)
三島橋二(北部)
重信幸男(志和地)
田中恭生

理事

2月26日
県下医師会立検査センター連絡
協議会
広島県医師国保組合会議
高場副会長出席

3月1日

福島後援会対策委員委嘱
三次町 藤井正二、佐々木務
箕岡源二、小川晃二
十日市町 野村節也、鳴戸謙隆
佐藤俊久、岡崎邦之
大谷直樹、藤谷博義
志和地町 重信幸男
和知町 岡部良哲
三和町 津島治雄
布野村 吉光 力
作木村 齊藤 憲
吉舎町 岸田 久、田中恭生
三良坂町 高場賢二、今井維準
3月5日 小川晃二先生母堂葬儀
3月13日 代議員会
野村会長、鳴戸副会長出席

3月29日

野村会長、鳴戸、高場副会
長出席
福島後援会対策委員会
出席者 野村、鳴戸、高場、今
井、小川(自來)、岡崎、箕
岡、重信、佐藤、藤谷
(博)先生

4月6日

東雲会ブロック会議
4月14日 昭和52年度理事会
・新理事職務分担、裁定委員補充
(三和町佐々木喬先生就任)
・予防接種契約書
(52・4・1更新)外

4月19日

三次町医会ブロック会議
・双三地区循環器補習講座
演題「アダムスストロークス症候
群と治療」
講師 広大第一内科助教
吉田正男先生

5月14日

各郡市地区医師会広報担当理事
連絡協議会「参院選の広報活動
について」 田中理事出席
5月22日
福島氏激励会 於広島医師会館
講堂、双三地区医師会より25名
参加

6月3日

乳がん検診打合せ会
6月8日
増築献入式 野村会長、中岡工
務店参列

6月15日

執行委員会 野村会長出席
6月17日
・医学講演会 於三次文化会館
演題「医療事故について最近の
判例をめぐって」

講師 県医師会常任理事
・佐伯習之夫人御尊父葬儀

6月18日
学校医部会 高場副会長出席

6月21日
広島県医師連盟北部地区総決起大会

7月16日
地域対策協議会 高場副会長、
黒瀬真規子先生出席

7月20日
・双三地区循環器補習講座

演題「脳卒中の外科的療法①」
講師 県立広島病院脳外科部長
北岡保先生

7月22日
医連執行委員及び郡市地区医師
会広報担当理事合同会議
野村会長、岡崎理事出席

7月23日
広島県医師国保組合会議
高場副会長出席

7月28日
・理事会
広島医学会北部支部大会
(11月20日(日))

昭和51年度決算報告(長船理事)
参院選の反省

8月11日

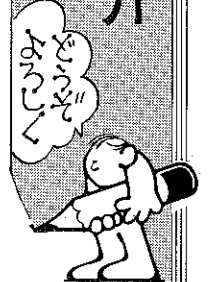
・巴杏第15回(13号)編集委員会
出席者 田中委員長、藤谷、箕
岡、谷岡各委員、高場
副会長

8月31日

・社保審査会 箕岡理事出席

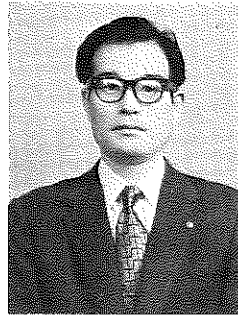
・双三地区循環器補習講座
演題「脳卒中の外科的療法」②
講師 県立広島病院脳外科部長
北岡 保先生

会員紹介



小川 泉二先生

大正十年八月十五日生



福山市駅家町出生 昭和十八年
金沢医科大学専門部卒、一応軍医
予備員となりましたが、病を得て
出征せず、生き延びた次第。縁あ
って三次町に開業したのが昭和二
十四年七月、当時医師会長は、日
下部先生でした。幸に病氣らしい
病氣もせず、十年一日の如く、今
日まで約二十八年、細々ながら大
過なくやってこられた事を、感謝
して居ります。

然しまた一方、春風秋雨余りに
も早く月日が過ぎた感じで、人生
無意味の感が、心の片隅にある此
の頃です。

若い頃は狩猟にのぼせた事もあ
りました、此の頃は磯釣りに、
時折出かける程度です。

妻と花嫁修業中の次女の三人暮
し、長女は嫁し、長男も嫁をもら
い、東京医大眼科、次男は、川崎

近藤美登里先生

大正十一年二月十九日生
(旧姓 宮)



医大在学、何時の間にか、孫も四
人になり、時々訪ねて来る。
孫達の成長振りにいやでも、自
分の年をみせつけられます。いま
では、これから先の人生、マイペ
ースでと開きなごりの心境です。

現住所 三次市島敷町一七〇一の二

昭、17、9、帝国女子医専卒業

昭、17、10、東大分院小児科入局

昭、22、6、近藤憲員に嫁す

昭、45、3、夫死亡、医業を継ぐ
家族

長男 泰弘 会社員

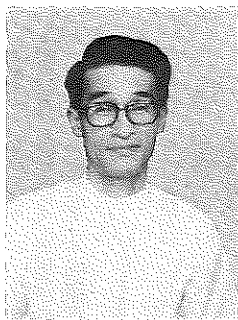
長女 紀代 家事手伝い

次男 哲司 岡大医学部四年

月日の経つのは早いもの年老い
た姑と学半ばの三人の子を残して
夫が急死しどうやって生きて行こ
うかと思つたあの日から七年六カ

黒瀬浩亨先生

大正十一年十月二十四日生



現住所 三次市十日市町二五九五
昭和十九年 岡山医大附属

月過ぎました。姑を守り子等を育
てるためどんなに辛くとも代々医
家として住み着いている此の地で
頑張ろうと心を決めた私が細々な
がら医業を続けられたのもただだ
だ先生方の暖かい御励ましと御力
添えのおかげと何時も有難く思っ
て居ります。子に先き立たれずっ
かり老老した姑も五十年一月八十
九歳で逝き、上の二人の子は大学
を卒え下の子も大学の四年となり
ました。しかしまだ労多き日々が
続いて居ります。私も夫の逝きま
した輪となりあと幾何の余命か神
ならぬ身の知る由もありませんが
一日一日を大切に生きて子供達を心
の灯とし診療に生き甲斐を求めと
もすれば失いがちな心の潤いを短
歌に求めて私なりにせい一杯生き
て行きたいと願って居ります。こ
れからも色々とお世話話様になるこ
とが多いと思いますがどうかよろ
しく御力添え御指導いただきます
よう。御願ひ申し上げます。

医専卒
家族 妻 真規子 内科開業
東邦女子医専卒
長女 規子 昨年内科医に嫁
し広島在住
次女 美愛 中学三年
妻の母 智恵

高田郡向原町に父祖の医業を
する家に生れ広島大学生化学教室
を経て同大耳鼻咽喉科に入局、昭
和四十年現住所にて開業。何時の
間にか十二年が経ち霧と山紫水明
の三次の山河も馴染み深いものと
なりました。次女はまだ中学生な
ので今一息頑張らなければと思っ
ています。

消化器系鎮痛・鎮痙 Daipin[®]

上腹部痛に制酸剤の効果持続に...

ダイピン錠

一般名 Nメチルスコポラミン Nメチル 硫酸塩 識別番号 106

第一製薬株式会社 東京都中央区日本橋三丁目14番10号

CBM社リム・フランス社製



三年間の「巴杏」編集を顧みて

前編集委員長 永井又太郎

当地区医師会の季刊誌「巴杏」の創刊号が、去る昭和四十八年十一月一日付けで発行以来、第十二号が昭和五十一年九月三十日付けで発行される迄、三年間を不肖私が、その編集に微力を尽して来た。今、静かに振り返って来てみると、何分とも素人の、しかも文才のない私が、会員の皆様の満足のいく季刊誌として編集出来なかつた事を、先ずもってお詫び申し上げます。

しかし、拙ない編集ではありましたが、私なりの苦勞もあり、今後の編集に少しでも役に立てばと思ひ、敢えて投稿させて頂きました。私は、産婦人科医ではありませんが、お産をした経験はありません。しかし「陣痛」とは新しい生命が生まれ出る時の苦しみであり、喜びでもあります。そういった意

味で、創刊号の発行にあたってはこれがまさに「陣痛」と言うべきものかという心境でした。かくして季刊誌の題名は、全会員の方から募集し、理事会で「巴杏」と決定したものの、題字を、故藤戸登守先生に書いて頂く為に日参した事も思い出の一つでしょう。

又、「巴杏」編集委員なるメンバーを特別に作って頂き、前会長得能長枝先生の発刊の辞で述べられた如く、会員相互の親睦を密にし、諸行事の報告をなし、肩の凝らないユニークなものにするべく、編集委員の先生方の御意見や御高説を十分取り入れて編集したつもりです。

即ち、学会報告・ブロック便り・会員紹介・随筆・医師会便り・故人となられた先生の追悼録等を中心なる内容とし、スポンサーの獲得等、地固めに尽し、石の上にも三年、と言う諺通り、どうか軌道に乗りかけていきましたが、やや内容的にマンネリ化する傾向にあらたかもしれません。全会員よりの「巴杏」に対する生きたアンケートを頂くべく計画をしていた矢先不幸にして私が昭和五十一年十一月十日、軽い意識不明に陥り、長船元昭先生の勧めで双三中央病院に入院する結果となり、結論的に「本態性高血圧症」殊に眼底出血の為、安静・加療を若本院長より指示され爾来、半年間、半病人のような状態で家庭療法に専念する結果となりました。依って「巴杏」編集の事が、当時の担当理事として重責に耐え難く、遂に理事を辞任させて頂く事になりました。今では殆ど元の状態に回復したものの「巴杏」の編集が出来ない事は慚愧に堪えません。

苦心談の一端としては、第三、四号迄は比較的集まり易かった原稿が次第に遅延しがちになり、発行の期日が遅れた事は私の努力の至らなかつた為と思ひます。近く、田中恭生新編集委員長の元に「巴杏」が再発行の運びとなつた事は御同慶にたえません。新編集委員メンバーのグッド・アイデアによる新鮮味のある「巴杏」が、今後、細く長く永続し、会員相互の親睦と心の絆となつてくれる事を切望するものであります。擲筆するにあたり、いたらぬ私を今日迄御指導・御鞭撻下さつた会長を始め、編集委員の諸先生は、勿論の事、投稿御依頼に對しては、御多忙中を御玉稿をお送り下さつた諸先生方に深甚なる感謝の意を表しますと共に、全会員の御健康と御発展を祈っています。

新編集委員会の希望としましては、前委員長が一番苦勞されました原稿の投稿に一層の御協力をお願いしたいという事です。それには、気軽に書いて頂くということをお願ひします。即ち、医政問題・趣味・随筆・若き日の思い出・失敗談等、その他何でも結構です。たとえ原稿用紙一枚でも結構ですから御投稿下さるようお願いいたします。又、出来れば写真欄等も時折掲載してもよいと思ひますので、四季折々の風景、ポストカード等あればお送り下されば予算と紙面の許す限り随時掲載して行きたいと考えています。

新編集委員を代表して、今後の抱負とお願いを致しまして再刊の御挨拶とします。尚、「巴杏」編集に関しまして御意見・御要望がございましたら、御遠慮なくお電話なり、御書面を賜らば幸甚と思ひます。出来得る限り御希望に添いたいと思ひますし、そうすることが「巴杏」を一層ユニークなものにする事になると信じます。



新編集委員を代表して

新編集委員長 田中恭生

昭和五十一年十一月に前編集委員長永井又太郎先生が編集委員会を招集されましたが、突然の先生の御病氣のため編集委員会が流会となつてしまいました。私達編集委員一同は只管先生の御回復をお祈りし、再び「巴杏」

編集委員長として復帰される日を待ちわびていました。然しどうしても編集委員長及び理事としての重責に耐え難いという理由で辞任されました。後任として、何方か三次市在住の先生が就任される方が、事務の引継ぎ、又委員会の開催等について便利であることは言うまでもないことなので、その線で極力会長・副会長・

及び新編集委員の先生方と折衝致しましたのですが、図らずも年の功ということで、編集の経験も全くなく、更に加えて文才の乏しい私が新編集委員長をつとめることになりました。

就任しました以上は、出来得る限り一生懸命その任を果たしたいと努力致します。前委員長永井先生の方針を踏襲していきたいと

思っています。然し果たしてうまくいくかどうか大変危惧しています。ただ私の一つの支えは新編集委員の中には編集の経験のある先生もおられますし、又全員の方が編集委員長の積りで私を助けて下さるので、何とかその任を果たすことが出来るだろうと、危惧の中にも一条の希望を見出している次第です。

新編集委員を代表して、今後の抱負とお願いを致しまして再刊の御挨拶とします。尚、「巴杏」編集に関しまして御意見・御要望がございましたら、御遠慮なくお電話なり、御書面を賜らば幸甚と思ひます。出来得る限り御希望に添いたいと思ひますし、そうすることが「巴杏」を一層ユニークなものにする事になると信じます。

短歌

あれから七年

三次市島敷町 近藤美登里

・しんしんと冷えゆく夫の骸守る
一夜明け初め春の雪降る

(昭45)

・胸にかけし形見のペンダント重
くとも生きねばならぬ朝を粧う

(昭46)

・母らしき言葉かけやるいとまな
く帰寮する子よ我れは開業医

(昭46)

・す枯れたるすすき道行く往診の
夕づく空に淡き月影

(昭47)

・血圧の低きに耐えて診し夜のテ
レビはげしく医師を批判す

(昭48)

・君のあと継ぐ道開けし子を語り
墓標にそそぐこの祝いの酒

(昭49)

・植物の如く生きます姑なれど守
らねばならぬ生命の限りは

(昭50)

・やすらぎは君のみもとで永眠る
日に宿願の墓ようやく成りぬ

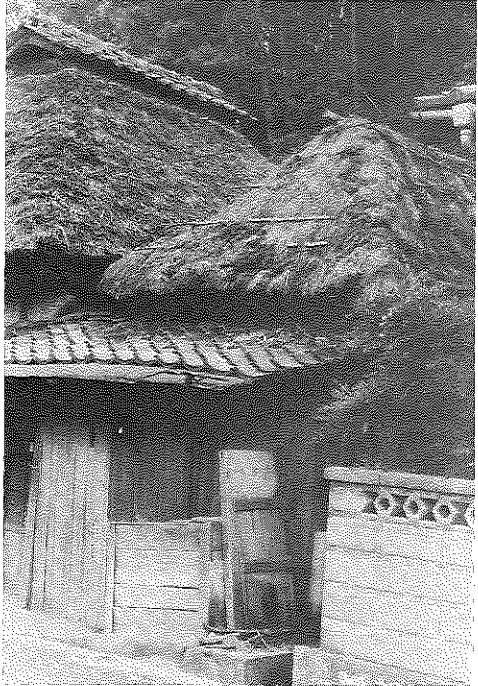
(昭51)

・嫁ぎ来て三十年の今日の目を一
人で迎え終日を診る

(昭52)

・一つずつ亡夫の願いを成し遂げ
ん老いづく我の生の限りを

(昭52)



すたれゆく
藁葺屋根

吉舎町
田中恭生

会員紙上フォトこんてすと

抗動脈硬化剤
抗キニン性・抗遅延型炎症反応因子性
血管透過性亢進阻止剤

ANGININ



BANYU PHARMACEUTICAL CO.,LTD

編集 後記



今年は大変変則的なことの多い年のようなです。九月も半ば過ぎても盛夏のような暑さが続いたかと思えば、盛夏の最中にも秋のような肌寒い夜がありました。

又、日航機のハイジャックが世界の人々の憤激と心胆を寒からしめました。乗っ取り犯人に対するアルジェリア政府の措置が注目されます。

それかあらぬか今回の「巴杏」も十三、十四、十五、十六号の合併号といった変則的な発行となりました。最初の素人編集長としての編集は、やはり思っていた通り一向に変わらぬのしない、見栄えのしないものになったことをお詫びします。やはり原稿の集まらないことが一番苦労することです。その中であって、近藤美登里先生の短歌の投稿がこの号に一つの花をそえて下さいました。

次号から諸先生の御投稿を首を長くして待っています。

(田中・記)